

Smile インタビュー(3)
Woman!
 この人の仕事のかたち
 ここに書いてある「仕事」をしている人の人にズームアップ。

江戸時代発祥の 招き猫文化を現代に



Chisami Mushioka

岡山市の北部、金山の懐に、日本初招き猫を集めた美術館として1994年に開館した同館。創設者が約20年をかけて各地をめぐり収集した古い招き猫や、現代の郷土玩具作家による作品など、約70点の招き猫が所せましと展示され、独特の世界観を創り出している。副館長の虫明ちさみさんは、日常の館の運営や、来館者の接遇、企画展の企画実施などを全般的に手がけている。

◎ 来館者との話が楽しみ

もともと文化芸術分野やイベント企画などの仕事は専門外という虫明さん。「結婚を機に、生まれ育った広島から移り、義父が設立した美術館の運営にも携わるようになったんです」と語る。異郷の岡山での暮らしや、初めての美術館運営という仕事にも困難もあったことと思う。しかし虫明さんは、山あいの自然豊かな環境を積極的に楽しみ、また持ち前のコミュニケーション好きの気質もあって、混雑の少ない平日など積極的に来館者との会話を楽しんでいる。同館は県外から繰り返し訪れるリピーターも多い。その魅力は、ユニークな展示内容もさることながら、彼女の人情による所も大きいといえるだろう。

◎ 楽しめる、笑顔になれる美術館

虫明さんに今後の館の展望を尋ねると、「江戸時代に庶民の間で生まれた招き猫文化を現代に継承し、海外にも魅力を伝えたいです」と力強く答

招き猫美術館
副館長

虫明ちさみさん

www.maneki-neko-m.jp



える。その実践として、同館では「参加できる美術館」を標榜し、イラスト大賞の公募や、抽付け体験といったイベントを定期的に開催。また願い事を書いて館内に貼る招き猫願ひ札も、「本当に願ひが叶った」などの口コミが広がりが好評を博している。「皆様に楽しんでいただいて、訪れる度に新しい発見や喜びを提供できるよう、今後も展示の充実や楽しいイベントを計画していきたいです」と虫明さんは目を細める。



◎ 人に喜ばれることが嬉しい

オタタイムの楽しみは、大切な家族のための料理作りだという虫明さん。「美味しと言ってもらえると嬉しいし、「人に喜んでほしい」という思いは、美術館の運営も家事も同じですね」と笑う。

同館では来年の設立20周年にむけ、記念行事も続々と計画中という。アンケート、美術工芸の愛好家や猫好き、あるいは願いを叶えたい人、叶った人など、世代を超えて多くの人に親しまれ、また進化を続けていく招き猫美術館。その世界観にふれてみては。